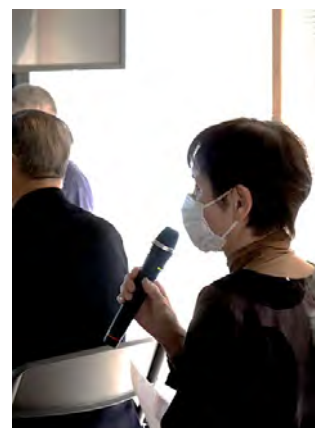


なみえ のいま

第10号
令和5年3月

地域の思い出といまをつなぐ



帰還困難区域の高瀬川溪谷の映像を見ながら
語る催しを開催。
参加した町民がそれぞれに想いを話しました。

帰還困難区域へ向けた取り組み

当事業では 帰還困難区域の住民に向けてもつながり創出などのコミュニティ再生に取り組んでいます

高瀬川溪谷のトークイベント開催

多くの町民に長く愛されている高瀬川溪谷。現在は残念ながら地区の大半が帰還困難区域に指定され、日々の美しい景色を愛でることができません。今年度は道の駅なみえのギャラリーにて高瀬川溪谷写真展を開催。さらに、皆さんの思い出やエピソードを語り合う時間も大切ではと、畑川行政区の4名の方を中心にトークイベントを開催しました。

立入許可を取り撮影した溪谷の動画を映しながら25名の参加者の方と会話を広げ、鮎釣りや芋煮会など自身と川の思い出が語られました。

最後には「町の大事な観光資源。早く除染が進むように」「震災前までは地元住民が手入れをしていた。今後の維持が問題」との意見も。多くの町民が知っている「溪谷と共にある豊かな時間」を語り合うことで素晴らしい感を改めて実感し、更に高瀬川溪谷の今後を考える、そんな一歩になったのではないかと思います。



▲地点ごとの動画を鑑賞



◀川との思い出を語る参加者

津島でお墓参り休憩所を開設

これまでも町内各所で実施してきた『お墓参り休憩所』を、準備宿泊が始まった津島でも秋の彼岸時期に開設しました。

「自宅の管理に通う回数も減ったが、お墓参りには行く」といった声を耳にしていたため、休憩所の設置が津島の皆さんの再会の場になればと考えました。

つしま活性化センター向かいの消防屯所をお借りして2日間実施しましたが、当日は台風の影響で住民の方の一時立入も中止になるなど、残念ながらお墓参りに足を運びにくい状況となってしまいました。

そもそも初めてとなる試みのため、地域の皆さんに趣旨が理解されにくかった面もあり、利用者はほとんどいませんでした。

しかし、今回このような企画を試みたことで「津島でも集える場をつくれる」と期待が持てました。新たに整備される住宅団地での交流などお手伝いできればと思っています。地域の皆さんの声を大切に、様々な取り組みを検討していきます。



▲休憩所ではなつかしい写真も展示



◀津島に住宅団地が10戸整備中

特定復興再生拠点のつながる場を検討

町内の帰還困難区域でも特定復興再生拠点として3カ所（津島、末森、室原）が避難指示解除されることから、拠点をきつかけとしたコミュニティ再生に取り組むべく、様々な企画を検討しています。

例えば津島では皆さんの思い出話で「秋には肉まつりが開かれ、みんなとの交流が楽しかった」という話題が多く挙がることから、肉まつりを思い出すようなバーベキュー・芋煮などの催しが拠点内でできないか、行政区長の皆さんや地域の方と検討を進めています。

なつかしい地元の場所で再会することで、皆さんの気持ちがつながり、子や孫へも地域の素晴らしいさが伝わるのではないのでしょうか。

そのほかにも、交流の場づくりに関して日々アイデアを巡らしています。開催へ向けてはマンパワーも不足しています。手伝いたいという地元の方がいらっしゃれば、ぜひお気軽にお問合せください。



▲当時の肉まつり（いきいき夢まつり）の様子。元事務局ご担当者提供

5 years

地域づくり支援専門員活動振り返り

この5年で幾世橋と請戸の2つの災害公営住宅に自治会が発足しました。当事業では、発足までの支援やその後の自立運営への後方支援として、顔を合わせる機会の創出や意見交換会の開催など、住民の皆さんとともに手探りで進めてきました。

長い準備期間を経ての発足でしたが、直後からコロナの影響で思うように活動ができないことが多々ありました。しかし、定期的に班長会を開き住環境の課題解決に動いたり、防災の催しを開催したり、バーベキューで親睦を深めたりと、2つの自治会どちらも時期や方法を工夫しながら、この状況でもできることを一緒に考え、活動を続けることができました。

人と地域のつながりをつくり、維持していきます。



▲乾燥の季節の前に実施した消火訓練

地域づくり支援専門員
引地 裕子



▲約50名の方が参加された浪江駅前の点灯式

地域づくり支援専門員
東 あすか



▲田植えの休憩ではそれぞれが近況などの話に花を咲かせていました

地域づくり支援専門員
吉田 めぐみ



▲町の皆さんから色々な話をうかがいます

地域づくり支援専門員
今野 聡

皆さんの記憶を紡ぎながら、よりよい地域づくりを一緒に考えます。

町民主体の「できる形」を少しずつ実現していきます。

皆さんの声をヒントに、「コミュニティ再生に取り組めます。

当事業は平成30年から、町民の皆さんを訪問する中でうかがったご意見や、行政区長などから出たアイデアをもとに、様々な形でコミュニティの再生へ向けて後方支援をしてきました。この5年間で、地域づくり支援専門員が印象深かった活動などをいくつか振り返ってみました。

地域づくり支援専門員に着任し、2年目を迎えました。

皆さんのお話を聞くなかで、今は日常的に目にする田園風景や神社仏閣も、震災後、地域の方の協力によっていろいろな形で再生されていることや、町内外あちこちの場所から、地域活動で皆さんが集まる様子などには心打たれることが沢山ありました。

行政区長や町民の方が、若い世代や移住者の方を快く受け入れ、地域活動を継続していくことがコミュニティ再生につながっていると感じています。

地域や状況によってコミュニティをつくる大変さがありますが、今後も皆さんが笑顔になるつながりができるよう伴走していければと思います。

5年前から継続しているのが町民の皆さんへの訪問活動です。これまで様々な声を聞きました。

私たちの活動も浸透していない中で始めた当初は、町内に商業施設が少ないことなど買い物や住環境に対する不満や苦情の声も多くありました。少しずつ住みやすくなったこともあり、最近では地域や近隣のつながりについて穏やかに教えて下さる方が多くなったと感じます。

皆さんにうかがっているのは、震災前はどのような地域活動があったのかということや、近所や集落の現在のコミュニティについてなど、地域の様々なお話です。その中で「帰ってきた人同士で、災害の際は声を掛け合おうと話している」「家の前の道路の草刈りを住んでいる人が自主的にやっている」「などコミュニティ再生へつながっていきそうな話題も出て、私たちの活動へのヒントも多数いただけるようになってきました。

町の動きを紹介します！ —伝統文化・神社仏閣編—

子ども神輿の復活への取り組み

11月19、20日の「十日市」に展示するため、任意団体「浪江を伝える会」が主催し権現堂地区の子ども神輿の掃除や飾り付けが行われました。行政区長や住民など30名ほどが参加し、神輿に飾るしめ飾りや担ぎ部分の親棒なども再生され、綺麗に蘇りました。

十日市でなみえ創成小学校の児童などが神輿を担ぎ、12年ぶりの復活となりました。



標葉神社にて例大祭開催

苅宿地区にある標葉神社で、11月13日に例大祭が開かれました。苅野地区一円の神社として、地域の方にも親しまれている標葉神社。コロナの影響で、出席者は氏子総代ら役員のみにしたものの、久しぶりに浦安の舞や苅宿の神楽の奉納などを含めた例大祭として開かれ、地域の平和や安全を祈りました。



正西寺にて報恩講開催

11月11日に、川添地区にある正西寺では、12年ぶりに浄土真宗の法要「報恩講」が行われました。

コロナ状況を鑑みて規模を縮小しての開催となりましたが、檀家の方など地域住民約100人が本堂に集い、法要が執り行われました。伝統行事の復活や久しぶりの再会を喜ぶ声も聞こえ、改めて人々とのつながりに感謝する1日となりました。



なみえのいま 第10号（令和5年3月1日発行）

発行・編集：一般社団法人まちづくりなみえ 町内コミュニティ再生支援事業

〒979-1521 浪江町権現堂字塚越2-10

Tel：0240-23-7530 Fax：0240-23-7531 HP：<http://www.mdnamie.jp/>

▼ HPはこちら



当事業の活動広報誌「なみえのいま」は年度内2回（10月と3月）発行しています。

バックナンバーはホームページに掲載しており、QRコードを読み取ることでアクセスできます。

また、道の駅なみえや浪江駅構内なみえまるみえ情報館等にも配置しています。